

作ろう！ 段ボールとバルーンの夢のまち

みんなで夢ふくらませ…

3月21日、今庄地区公民館で、今庄地区母親クラブと公民館主催による子ども対象のイベント「作ろう！段ボールとバルーンの夢のまち」が行われ、約60人が参加しました。

まず、楽放課後（うたがわ）学校のお兄さんたちと準備体操をした後、細長い風船をハンドポンプで膨らませ、ねじって組み合わせ、動物や剣、お花づくりに挑戦。その後、みんなで段ボールとお菓子の家を作り、大きなお菓子の家を作り、イルミネーションを点灯。歓声を上げて楽しんでいました。



河野小学校ジャズオーケストラ ファイナルコンサート

素晴らしい演奏で聴衆を魅了

河野小学校ジャズオーケストラファイナルコンサートが、3月22日、河野しおさいホールで開かれ、約100人が訪れました。ジャズオーケストラのメンバーは、今年3月に卒業した6年生を中心に構成されていたため、この日が最後の演奏となりました。コンサートでは、応援してくれた家族や地域の方々への感謝の気持ちを込め、17曲を披露、楽しそうに演奏するメンバーに大きな拍手が送られました。

河野小学校ジャズオーケストラは平成18年に結成、以来学校行事や地域行事での演奏を始め、吹奏楽コンクールで入賞するなど多くの人々に感動と希望を与えてくれました。



高倉砂防西高倉堰堤 登録有形文化財プレート伝達式

守りついで活かそう！歴史遺産

3月26日、今庄総合事務所が高倉砂防西高倉堰堤の登録有形文化財プレート伝達式が行われました。明治35年頃に造られ自然と融合したこの堰堤は、巨石を用いるなど技術的にも優れており、貴重な歴史的建造物であるとして、平成21年1月に国の登録有形文化財に登録されました。伝達を受けた保存会の伊藤求さん（瀬戸）は「瀬戸区をあげて、この堰堤を保存していきたい」と話しました。

今後は、保存会が中心となり、草刈や歩道の整備、砂防ハイクなど歴史遺産の保存活動や有効活用を行います。



今庄保育所閉所式・お別れ会

思い出をありがとう

3月28日、今庄保育所で閉所式が行われました。今庄保育所は昭和44年の開所以来、今庄地区の幼児保育の拠点として大きな役割を担ってきましたが、今庄なないろこども園の開園に伴い、閉所することとなりました。

閉所式には、園児と保護者ら約150人が出席。川野町長らのあいさつの後、最後の修了児となるきりん組の園児が歌と言葉で思い出を振り返りました。

また、保護者会によるお別れ会では、思い出が詰まったスライドショーの上映や園児からお世話になった先生方に感謝状と花束が手渡され、感動の涙と笑顔に包まれながら40年の歴史に幕を閉じました。



防犯ブザー・バインダー寄贈

子ども達の安全と学習のため！

3月30日、福井エフエム放送（舟木幸雄代表取締役社長）から町内の新小1年生に防犯ブザーが贈られました。これは、子どもを狙った凶悪犯罪の被害に遭わないように、子ども達の安全を守ろうと贈られたもので、ヒモを引き抜くと大きな音が鳴る縦7cm、横4cmの携帯型ブザーです。

また、4月15日には南条今庄ライオンズクラブ（安川清太郎会長）から、将来を担う子ども達を応援し、学校生活に役立ててもらおうとバインダーが贈られました。このバインダーは勉強道具なども収納でき、校外学習などに活用されます。



可憐なカタクリの花と伝統の町並みを満喫

カタクリの花と今庄宿ミニツアー

春の到来を告げるカタクリの花の見学と、北陸の玄関口であった今庄宿を訪れるカタクリの花と今庄宿ミニツアーが4月5日、11日、12日に行われました。

カタクリの花は、藤倉山のふもとにある新羅神社裏の約3ヘクタールの斜面に約10万本群生し、穏やかな春の日差しを浴びながら薄紫色に咲き誇ります。珍しい白いカタクリの花もあり、訪れた人々は感激していました。また京藤家など伝統のある町並みや地酒の酒蔵を見学し、参加者らは宿場町として栄えた今庄宿を堪能しました。



ドイツから ノーベルト・エンムラホー氏来町

国際交流のかけはし

4月8日、ドイツのオッタスバイヤー市からノーベルト夫妻が南越前町を表敬訪問しました。オッタスバイヤー市は、南越前町程度の農業中心のまちで、南越前町国際交流協会とは25年程の交流があり、交流団が何度も来町しています。

代表者のノーベルト氏は川野町長と懇談した後、南条保育所を訪問。子ども達が幸せな人生を送れますようにと、ハッピーコインと言われる1セント硬貨をプレゼントしました。英語を話すノーベルト氏に、園児達は「英語習ったことあるよ」とドイツからの訪問者に興味津々。一緒におやつを食べるなど、国際交流の輪が広がりました。



大きくなれ



アワビの稚貝放流

河野地区栽培漁業推進協議会が、4月17日、大きき約3センチのアワビの稚貝1,000個を放流しました。県栽培漁業センターで生産された1.8センチ程度の稚貝は、昨年11月、越前町の米ノ中間育成施設に搬入され、海に浮かべた箱の中で育てられました。飼育された稚貝は、海藻などにより殻が鮮やかな緑色をしているのが特徴です。

今回の放流は例年の船上からの放流に加え、南越前ダイビングパークのダイバーが潜水して放流。潮に流されないよう岩陰などに稚貝を次々と放流しました。順調に育てば3〜4年後には、水揚げが可能になるそうです。

